



# 洋上アルプス

No.299

2020年2月5日

発行  
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は  
こちらにあります  
[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333

## 高層湿原保全対策検討会の開催 (12月24日)

鹿児島市宝山ホールにおいて、「令和元年度第2回世界遺産地域における高層湿原保全対策検討会」が開催されました。

今回は、6月4日開催の現地検討会及び7月10日に開催された科学委員会での議論の経過を踏まえ実施されました。会議では、水の出入りや気温・水温等の各種モニタリング調査の中間報告及び丸太木柵工による試行的保全対策等に関する報告と次年度以降に係るモニタリング調査事項や検討会開催について提案があり、活発な議論が行われました。

各委員からは、地質の調査箇所や調査方法、雨量データに関する調査、今後の取組やスケジュールについて様々な意見や質問が出されました。

この結果については、2月に開催される第2回目科学委員会で報告され、来年度も屋久島の高層湿原を始めとする生態系保全対策を積極的に推進することとしています。



議論が続く検討会の場

## 林業の歴史と保全管理を学ぶ — 中央中学校全校生徒へ — (12月23日)

屋久島町立中央中学校からの依頼を受け、屋久島の林業遺産や森林の保全・整備等に関する現状について、屋久島森林管理署と当保全センター合同で出前授業を行いました。

最初に、当保全センターの山部自然再生指導官から、優れた自然景観や特異な生態系など森林生態系の保全の取組みについて説明を行い、次に屋久島署の一口森林技術指導官から、屋久島の林業の歴史と人工林の現状及び森林の再生などについて説明しました。また、今回の環境教育は、今までにない全校生徒170名が対象ということで、資料作成に大変苦慮しながらも分かりやすく丁寧な説明で、生徒の皆さんからも大変喜ばれました。



全校生徒で屋久島の未来を考える



外来種等の説明(山部指導官)

生徒からは、「スギ材や土埋木の現状、植生や外来種及び保全活動への取組状況など詳しく知ることができました。」と感想をいただき、これからの屋久島の未来について大変興味深く考えていることが感じ取られました。

これからも、多様な生態系の保全管理と併せてバランスのとれた持続可能な屋久島の森林づくりについての理解を広げて行きたいと考えます。

## 安心して休憩できます！ — 山岳ガイドボランティア — (12月17日)

昨年11月25日の作業に引き続き、屋久島で活動する屋久島山岳ガイド連盟、屋久島観光協会ガイド部会、屋久島ガイド連絡協議会の3団体に所属する山岳ガイドの皆さんが、日頃から縄文杉へ登山客を案内する際に利用している小杉谷休憩舎の屋根の葺き替え作業を実施されました。

この取組は、平成30年度から始まり、休憩舎内の清掃と屋根反面の補修など2回実施しています。今回の作業についても、屋久島森林管理署と当保全センターから職員が参加して、前月の作業で屋根材が不足し完成できなかった作業と休憩舎内のベンチ材の補強を行い、ガイドの皆さんの見事な手さばきで無事に完成することができました。当日は、あいにくの雨模様でしたが、これまでより軒先



屋根板の張替作業

を50cm以上伸ばしたことでスムーズな作業段取りと参加された皆さんも足下に注意し皆で声を掛け合いながら安全に進めることができました。小杉谷は縄文杉登山客の憩いの場であり、皆さんに愛されている場所でもあるので、心地よく利用したいだけになりました。そして、これらの取組を多くの方々にPRすることができたと思います。

最後に、山岳ガイドの皆さんを代表して伊熊清明ガイド副部長より「作業に対する感謝の念と、本日補修した片屋根に平木を作成し設置することが残されています。これについては、子どもたちにも参加してもらい、小杉谷50周年行事などと併せて取り組んで行きたいので、今後も皆さんのご協力をお願いします。」とあいさつがありました。

今後についても、林野庁職員とガイド団体との連携を継続しながら、更なるボランティア活動が継続されることを期待します。



上:地杉の色が美しい  
下:補修したベンチ

## 種子島で森林教室を開く — 榕城小学校 — (1月11日)

ヤクタネゴヨウ保全の会からの職員派遣依頼を受け、西之表市立榕城小学校6年生(84名)を対象に森林教室を行いました。当初は小学校近隣の公園において野外授業を行う予定でしたが、天候不良のため小学校内の多目的ホールでの開催となりました。

当保全センターは、植物の葉の形の違いや種子島の特徴的な植物を紹介、クロマツとヤクタネゴヨウの種の違いや模型を使って種の仕組みを説明、木の名前当てクイズ等を行いました。その後、ヤクタネゴヨウ保全の会が絶滅危惧種であるヤクタネゴヨウの保全活動の取り組み、マツクイムシ対策の取り組み等を説明しました。

最後に、校長先生から「日頃は気付かなかった植物の葉や種の違い、希少な種子島の植物、ヤクタネゴヨウを守る取り組みなど大変貴重な学習ができた。」とお礼の言葉をいただきました。



葉の説明を真剣にメモする児童たち



## 2020～2021年度「国有林モニター」の募集について

林野庁九州森林管理局では、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、森林・林業や国有林に興味を持たれる一般の方々を対象に、国有林の役割や現状等の情報をお知らせし、また御意見をいただく「国有林モニター」を実施しています。

この度、2020～2021年度「国有林モニター」を下記のとおり募集いたします。皆様からのご応募をお待ちしています。

【募集人数】 60名程度(各地域で均衡を図るため、最終的な人数と前後することがあります。)

【依頼期間】 2020年4月1日～2022年3月31日（2年間）

【依頼内容】

- 森林・林業、国有林に関するアンケートへの回答(匿名にて公表することがあります)
  - 森林・林業、国有林に関する御意見や御提言などの報告、弊局広報紙への投稿
  - 国有林モニター会議への出席(年1～2回、希望者のうち一定数)
- ※弊局の広報誌など、国有林に関する資料を定期的にお送りします。

【応募資格】

九州・沖縄8県にお住まいの20歳以上(2020年4月1日現在)の方で、森林・林業および国有林に関心を有する方。  
※ただし、国会及び地方議会の議員、地方公共団体の長、常勤の国家公務員、国有林野事業職員OB、森林・林業担当の自治体職員並びに2018～2019年度(平成30～令和元年度)に国有林モニターであった方は除かせていただきます。

【応募方法】

下記必要事項をご記入の上、ハガキ、封書、メール又はファックスのいずれかの方法で、以下の宛先まで御応募ください。御不明な点につきましては、御遠慮なくお問い合わせ下さい。

〒860-0081 熊本市西区京町本丁2番7号  
九州森林管理局 企画調整課 国有林モニター担当  
TEL : 096-328-3642 FAX : 096-328-3643 E-mail : ky\_kikaku@maff.go.jp

【必要事項】

- 氏名(ふりがな)、性別、生年月日、年齢、職業、住所、郵便番号、メールアドレス電話番号(固定電話・携帯電話)
  - 国有林モニターを知ったきっかけ(具体的に記入)
  - 国有林モニターに応募された理由(100字程度)
- ※ご応募いただいた個人情報は、個人情報の保護に関する法律に従い、適正に取り扱います。なお、一度送付いただいた申込書はお返ししませんので、あらかじめご了承ください。

【募集期限】 2020年2月26日(水)(当日消印有効)

【発 表】

- 選考結果は、2020年3月末日までに依頼状の発送をもってお知らせいたします。
  - 依頼状と共に、確認事項と同意書をお送りしますので、署名の上ご返送下さい。
- ※選考結果に対する個別のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。  
※なお、国有林モニターの募集及び過去の活動については、九州森林管理局のホームページで公表しております。  
URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/monitor/kokuyurin-monitor.html>

【問い合わせ先】

九州森林管理局 総務企画部 企画調整課  
国有林モニター担当 : 角田  
TEL : 096-328-3642 FAX : 096-328-3643



## 縄文杉大枝等健全度調査（平成29年度）①

### 1. 目的

平成25年度に実施した「縄文杉の大枝腐朽部の折損防止索の補強及び非破壊診断調査等業務」において確認された大枝部の腐朽度を含めた健全度調査を実施する。

### 2. 方法

健全度調査は、非破壊法によるものとし、平成25年度調査と同様、センサー付きの音響波計測診断器「ドクターウッズ」を使用し、縄文杉の東側大枝の根元付近から枝先端に向かって3箇所の測定を実施する。

測定は、高木登攀技術者兼樹木医3名及び音響波計測診断器オペレーター兼樹木医1名により実施する。センサーは、平成25年度に設置した箇所とほぼ同じ箇所を選定して設置し、5年前との比較ができるようにする。

(つづく)



図1. センサー設置箇所



図2. ドクターウッズによる調査状況



## 自然休養林情報

屋久島自然休養林は、白谷地区(白谷雲水峡)及び荒川地区(ヤクスギランド)の2地区から成り立っています。全体の面積は、約697ha、その内白谷地区が426ha、荒川地区が270haあり、レクリエーションの森として永年愛されています。

屋久島は、九州最高峰を誇る宮之浦岳(1,936m)を始め、永田岳(1,890m)等の著名な山岳が多く、亜熱帯植物から亜寒帯植物が分布し、更に数千年に及んでもなお生存するヤクスギは世界的にも類を見ない貴重な樹木であり、これらの林分は特異な森林景観を呈し、原生林をそのまま残しています。屋久島自然休養林は、このような生態系と自然景観を有する屋久島において、屋久杉を含む森林を比較的容易に鑑賞できる場所として設定されました。

また、ヤクスギの保護及び鑑賞の展示林として指定した「白谷雲水峡自然観察林」及び「荒川屋久杉鑑賞林」の名称を基に諸施設を整備しており、利用者の形態は、登山、原生林鑑賞、森林レクリエーションの場として利用者が多いところです。

現在は、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会が主体となり、関係施設を管理・運営しています。また、アサヒビールと協定を締結しているため、毎年10月頃にはボランティアによる清掃作業が実施されています。

(今月号より随時掲載しますので、ご愛読をお願いします。)

